

# 東京東部に熱い支援の輪

国鉄「分割・民営化」反対、三里塚二期工事阻止

## 日刊 動労千葉

1988.11.28 No. 2952

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七

### 新小岩支部と地区の仲間一体で

### 上映会の成功をかちとる

十一月十六日、江東区勤労福祉会館にて、東京東部「激」上映会が支部組合員、東部でたたかう労働者、市民の一三二名の参加で大成功をおさめた。



上映会オルグ奮闘記

新小岩支部△君

全ての準備が整い上映会は始まった。続々と東部地区の労働者、市民が入場して来る。上映会は松本執行委員の司会で始まり、関支部長、斉藤青年部長、上映委員会の渡部監督、布施本部書記長の挨拶を受けた。動労千葉のたたかいの報告と方針に会場全体が熱い注目のなかでさきいった。フィルムがまわされスクリーンに写し出されると全参加者の眼が釘付けとなった。また、ところどころで拍手や歓声が上がリ熱気につつまれた。上映が終わると直ちに連帯の挨拶、たたかう東部地区の労働者の発言を受けた。最初に、東京連帯労組を新たに作られた佐藤芳夫氏、続いて、部落解放同盟墨田支部、墨田区でたたかう教育労働者、最後に、亀戸ストライキ当事者である滝口幕張支部長の発言を受けた。上映会の締めくくりは、関支部長の団結ガンバローを全参加者が三唱し無事終了した。

新小岩支部は上映会の取り組みを一ヶ月前の執行委員会で決定した。準備期間がたったの一ヶ月という制約のなかで「本当に出来るのだろうか」という不安もあった。しかし、青年部を先頭に支部組合員の奮闘により準備は着実にすすんでいった。東部地区での物販オルグと平行して上映会の労組オルグをやり抜いた。片手に物販のチラシ、もう一方の手には映画のチラシとチケットを持って東部地区での労組、支援団体を駆け巡った。行く先々で「全民労連では労働者の生活と権利は守れない」「労働組合とよべるのは動労千葉だ

けだ」「鉄道労連は革マルは許せない」「物販は当然取り組み、上映会も全力で参加する」という動労千葉に対する熱い支援と協力のことはかけてきた。どの労組も二月の「俺たちは鉄路に生きる・第三報」上映会のオルグのときよりも反応は非常によい。それは日増しに、全民労連に対する危機感を強め、動労千葉のような実力闘争でたたかう労働組合に共感をよんでいるからだ。チケットは前回を倍増するようないきおいで売れた。支部組合員は延べ一〇〇ヶ所の労組オルグ、団地へ

のピラ入れを一ヶ月、一日も余すことなく東部地区を動きまわった。しかし、支部組合員の奮闘の一方で警察権力のイヤガラセがあった。集會届を一ヶ月前に申請したのにもかかわらず、受理されたのは上映会の前日なのだ。通常、四日もあれば充分なのだ。ところが一ヶ月もかかったのだ。天皇Xデー攻撃そのものだ。動労千葉のたたかに恐怖し、労働組合の基本的な活動さえも許さない弾圧なのだ。われわれは、このことを徹底的に弾劾する。この上映会の成功の意義は東部地区において全民労連の産報化と対決する潮流が上映会を出発点として形成されつつあることである。新小岩支部は上映会の成功をバネに支部内の団結の強化をかちとり、ストライキ体制を固め、全支部の先頭にたつ決意である。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！